

あしよろ・ハードサポート通信

この夏の台風の上陸は北海道に大きな被害をもたらし、足寄町内でも長時間の停電に悩まされた酪農場がありました。増水で深くえぐれてしまった圃場、土砂崩れで通行止めのままの道路など、激しい爪痕がいまだに残っている場所もあります。被害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

◆ 乳房炎が増えていませんか？

このところ、旬検査でのバルクの体細胞が 30.4 万を超える戸数が増えています。長く続いた残暑の湿気、長雨などで乳牛が疲れている中で、遅れていた 2 番牧草収穫が始まり、乳房炎の牛が見落とされやすくなっているのではないのでしょうか。

乳房炎になった牛の対策は、やはり「早期発見」、「早期治療」です。バケット搾乳の頭数が増えるほど搾乳に手間がかかりますが、その牛が慢性乳房炎牛になってしまうと損失は大きくなり、ますます時間をとられてしまいます。「急がば回れ」、乳房を触ったときにアヤシイと感じたら、すぐに PL テスターでチェックし、必要な処置を進めてください。

表) PL テスターの見方

凝集(ブツ)	体細胞の目安	凝集(ブツ)の所見	色		総合判定
-	20万/ml以下	ブツなし、乳汁サラサラ	-~±	黄色~黄緑	乳房炎陰性
			+以上	うす緑・緑	
±	15~50万/ml	少しブツあり、乳汁サラサラ	-~±	黄色~黄緑	1週間後に再検査して、 同じ結果なら陰性
			+以上	うす緑・緑	
+	40~150万/ml	ブツあり	-~±	黄色~黄緑	乳房炎の疑い
			+以上	うす緑・緑	
++ 以上	100~300万/ml	ブツ多く、乳汁ドロツとする	-~+	黄色~緑 (何色でも)	乳房炎

◆ ビタミン剤の増給

このごろの乳房炎発生の要素のひとつに、残暑ストレスによる免疫力低下があると考えています。町内巡回で皆さんのお話を聞いていると、夏場に分娩したり、暑くて思うように食べられなかったりした牛で乳房炎になっている印象です。

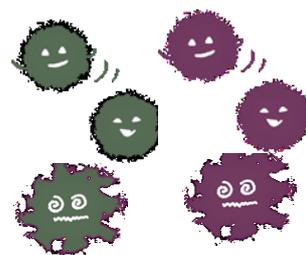
牛の調子がイマイチだと感じている時期には、体調が戻るまでの一定期間だけでも構いませんので嗜好性の良い粗飼料を与え、エサ押しの回数を増やすなど、しっかり採食してもらうためのひと手間をかけていただけたらと思います。

その上で、手持ちのビタミン剤を規定の 1.5~2 倍量程度を上限に増給し、疲労回復、免疫機能の改善の後押しをすると良いでしょう。特にビタミンEとセレンの給与が効果的です。

◆ 牛舎の換気を見直す

最近の乳房炎発生のもうひとつの要素は、雨が続いて湿度が高く、環境が乾かないことも響いていると思います。環境性乳房炎の原因菌は、湿潤な条件でより活発に活動します。

じめじめしている日はゆるやかに換気扇を回し、牛舎、牛床の換気と乾燥状態を再確認してみてもいいでしょうか。



◆ 乳房炎ワクチン接種の検討

国内初の乳房炎ワクチン「スタートバック」が発売されました。黄色ブドウ球菌(SA)、表皮ブドウ球菌(CNS)、大腸菌(CO)への抗体価を上げ、これらの乳房炎を予防できるという海外データが出ています。SAが蔓延している酪農場では、全頭に打つことで、新規感染を抑える効果が期待できるのでは？と個人的には興味を持っていますが、やはり魔法の薬ではないため、環境改善や搾乳などの乳質改善の取り組みと併せてのワクチン接種が基本です。

◆ 慢性牛は淘汰を考える、そのために後継牛を確保する

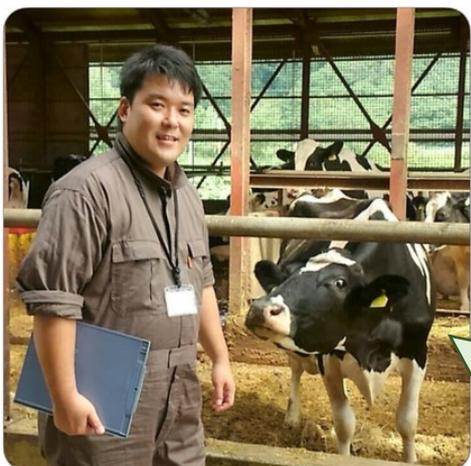
いろいろな予防対策をしても、産次を重ねるにつれ乳房炎感染のリスクが高まり、どうしても慢性化する牛が出てきます。治療を重ねてもぶり返す場合はその分房を盲乳にし、最終的には淘汰を検討しなければなりません。

乳牛の更新を考えると、未経産牛の在庫が多いほど迷わずに決断できますが、未経産牛が少ないと更新できず、我慢して搾らなければならない場合もあります。

そのため、慢性乳房炎牛が多いと感じている酪農場では、早期発見や治療といった直接的な対処に加え、未経産牛にX精液を積極的に活用し、戦略的に後継牛を増やす取り組みを進める必要があると思っています。

(久富聡子)

.....
 ・9月からハードサポートは酪農コンサルタント3名体制となりました。それぞれの得意分野を活かし、幅広く酪農家さんのお役に立てるようにがんばっていきますので、どうぞよろしく願いいたします！



市川 雷太 (いちかわらいた)

2008年に帯広畜産大学を卒業。

飼料会社に入社し、飼料営業の部署に配属される。乳牛だけではなく、和牛やF1の素牛農家さんと肥育農家さんとの取り組み経験も持つ。

中国語が得意。

初次見面 (はじめまして) !

皆さまに少しでも早く貢献できるように
 努力しますので、よろしく願いします!!